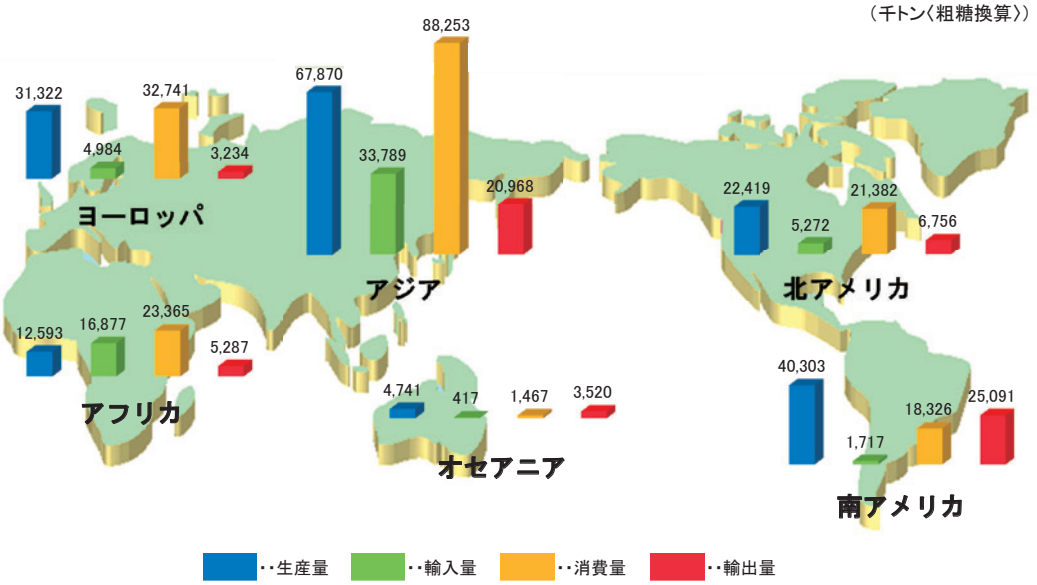
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　坂上　大樹

1．世界の砂糖需給（2019年12月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2019」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年12月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（10月～翌９月）の世界の砂糖生産量は、１億7925万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、前年度比4.2％減）とやや減少すると見込まれている（表１）。ヨーロッパや南アメリカは前年度を上回る一方、アジアでは主要産地であるインドやタイ、中国の減産の影響により生産量全体としては２年連続で前年度を下回る見通しである。

同年度の世界の砂糖消費量は、１億8554万トン（同0.5％増）と横ばいで推移すると見込まれている。世界の砂糖需要をけん引するアジアは昨今の景気動向を反映し、引き続き堅調に推移するほか、人口増を背景にアフリカも増加が見込まれている。一方、ヨーロッパでは健康志向の高まりなどから減少し、南アメリカでは経済成長の停滞が砂糖消費の伸びを抑制することで、アジアやアフリカでの増加効果を相殺するとみられる。

全体を見ると、2019/20年度は生産量が消費量を約630万トン下回り、期末在庫率が40％台を割り込むと見込まれることから、砂糖の需給はやや引き締まる見通しである。なお、地域別の砂糖需給は、図１の通りである。

表１　世界の砂糖需給の推移

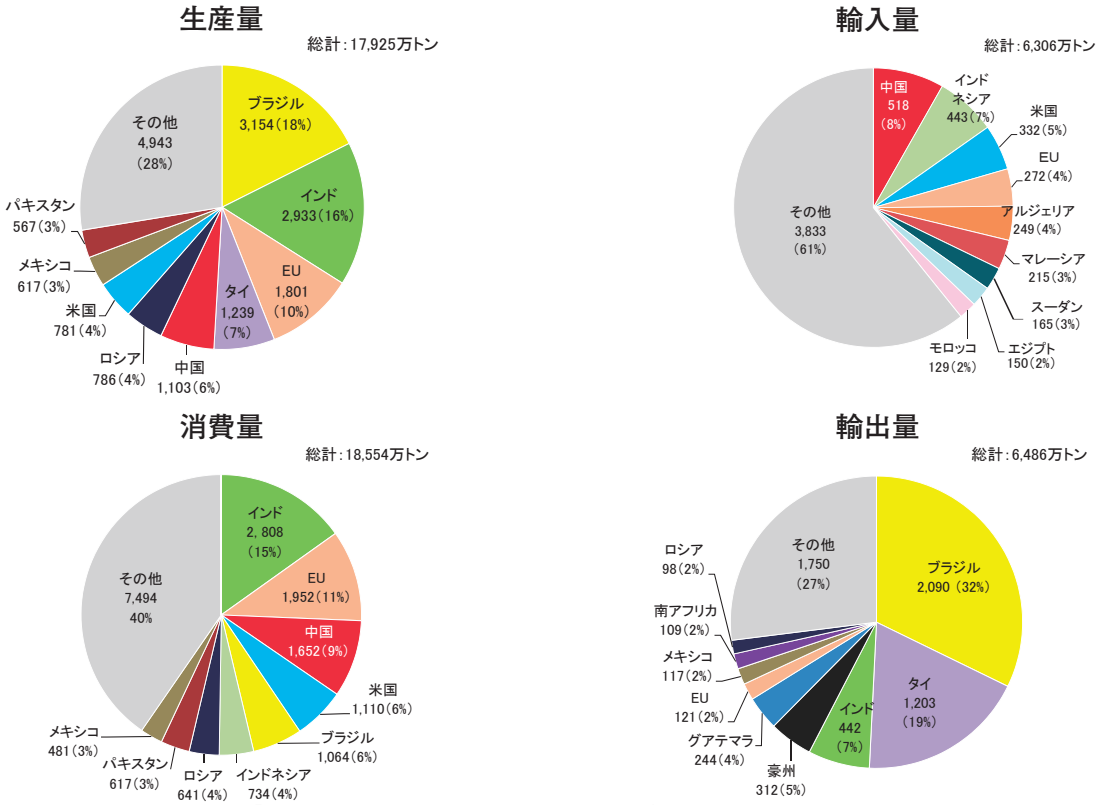
（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,084	160,315	56,023	164,779	56,244	50,398	30.6
2014/15	69,561	183,717	59,707	176,508	62,081	74,395	42.1
2015/16	74,395	175,955	67,776	179,661	69,077	69,388	38.6
2016/17	69,388	180,387	70,759	181,574	71,288	67,671	37.3
2017/18	67,671	195,333	67,236	180,765	69,396	80,080	44.3
2018/19	80,080	187,051	61,186	184,543	61,982	81,791	45.2
2019/20（2019年9月予測）	81,618	181,706	60,991	184,250	63,971	76,093	41.3
2019/20（2019年12月予測）	81,791	179,248	63,056	185,535	64,856	73,704	39.7

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2019」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
注２：2017/18年度以降は予測値。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注４：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2019年12月時点予測）

図２　主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2019/20年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, December 2019」
注１：主要国の年度は、各国の砂糖年度。
注２：主要国とその他を表示。
注３：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。
注４：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

【生産量】

2019/20年度の砂糖生産量を国別に見ると、インドは、干ばつや豪雨などの気象災害が各地で発生した影響で、2933万トン（前年度比17.8%減）と当初の想定より大幅な減産が見込まれることから、前年度に続き首位を維持すると予測した９月時点の前回見通しが修正され、第２位に後退する見通しである（図２）。

ブラジルは、砂糖の国際価格の低迷を受けてサトウキビのエタノール生産への仕向け割合が前年度に引き続き６割を超えるものの、砂糖生産への仕向け割合をこれ以上減らすことが困難とみられることから、3154万トン（同1.0%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれ、結果として首位に返り咲く見通しである。

EUは、てん菜生産量第１位のフランスでの減産が響き、1801万トン（同1.5%減）とわずかに減少すると見込まれている。

【輸入量】

2019/20年度の砂糖輸入量を国別に見ると、中国は、砂糖生産量の不足分を輸入で補っていることから、減産に伴い518万トン（前年度比4.3%増）とやや増加すると見込まれている。

他方、インドネシアは、砂糖の在庫量がここ10年間で最多となり、輸入糖の需要が低下すると見込まれるため、443万トン（同18.0%減）と大幅に減少すると見込まれている。

【消費量】

2019/20年度の砂糖消費量を国別に見ると、インドやインドネシアは、昨今の景気動向や個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、それぞれ2808万トン（前年度比2.0%増）、734万トン（同2.3%増）とわずかに増加すると見込まれている。

他方、長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国は近年、砂糖消費が頭打ち傾向となっており、1652万トン（前年度同）、EUは健康志向の高まりなどを背景に消費量が伸び悩み、1952万トン（前年度比0.7%減）と、ともに横ばいで推移すると見込まれている。

【輸出量】

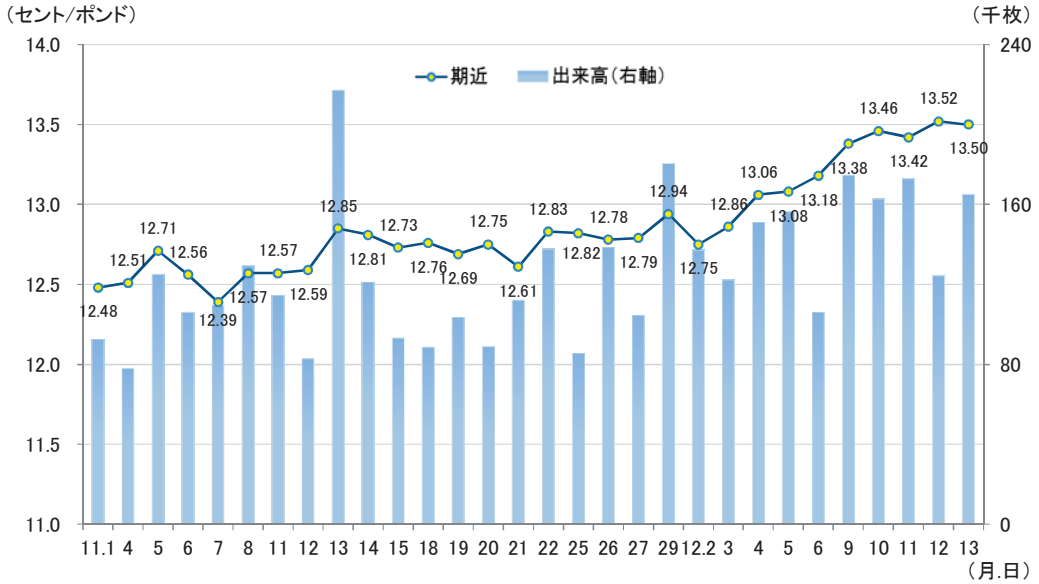
2019/20年度の砂糖輸出量を国別に見ると、ブラジルは2090万トン（前年度比0.3%減）と横ばいで推移するものの、第２位のタイは砂糖の国内消費の落ち込みをカバーするため消費の伸びが期待できる近隣諸国への輸出強化を図るとみられることから、1203万トン（同15.2%増）とかなり大きく増加すると見込まれている。

インドは、砂糖の過剰在庫の解消に向け、政府が補助金政策などを通じて輸出促進に努めているものの、砂糖の国際価格の低迷が輸出意欲を阻害し、442万トン（同19.7%減）と大幅な減少が見込まれている。

３. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（11/1 ～ 12/13）
～総じて緩やかに上昇しながら約10カ月ぶりに13セント台に乗せる～

図３　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：３月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年11月の推移を見ると（３月限（がつぎり））、前月の最終週から12セント半ばでもみ合う展開が継続し、１日は１ポンド当たり12.48セント(注)の値を付けた。５日は同12.71セントまで値を上げたものの、すぐに反落し、７日は続落して同12.39セントとなった。翌８日は反発して同12.57セントまで値を戻し、13日は同12.85セントと１カ月半ぶりに12.80セント台に乗せた。その後は、全般的に様子見ムードが広がり、取引が低調であったこともあり、27日までおおむね横ばいで推移した。29日は若干値を上げ、同12.94セントの値を付けた。

12月に入ると、２日は反落し、同12.75セントの値を付けた。３日は反発し、12.86セントまで値を戻すと、４日は製糖シーズンに入ったインドの11月の圧搾量が想定以上の落ち込みであったことが相場の押し上げ要因となり、同13.06セントと2019年２月以来約10カ月ぶりに13セント台に回復した。その後は、砂糖の需給が引き締まるとの観測が相場を下支えし、４営業日連続で続伸し、10日は同13.46セントまで上昇した。11日は同13.42セントと小幅に下落したものの、すぐに反発し、12日は同13.52セントの値を付けた。

（注）１ポンドは約453.6グラム、セントは１米ドルの100分の１。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年12月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年11月末日TTS相場の値であり、１インド・ルピー＝1.69円である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：859万ha（前年度比0.7%減）
生 産 量：６億3710万トン（同2.6%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3154万トン（同1.0%増）
輸出量：2090万トン（同0.3%減）

2019/20年度、生産量、輸出量ともに横ばいで推移する見込み

2019/20砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが一部で見られるため、859万ヘクタール（前年度比0.7%減）とわずかに減少するものの、生育期間を通じて天候がおおむね良好で、順調に生育していることから、サトウキビ生産量は６億3710万トン（同2.6%増）とわずかに増加すると見込まれる（表２）。

長期化する砂糖の国際価格低迷などの影響を受けて、多くの製糖業者でエタノール生産を強化する動きが目立つものの、砂糖とエタノールの仕向け割合は前年度と同水準で落ち着くとみられることから、砂糖生産量は3154万トン（同1.0%増）、輸出量は2090万トン（同0.3%減）と、ともに横ばいで推移すると見込まれる。

オーガニックシュガーの生産量、前年度実績を早くも上回る

ブラジル農務省（MAPA）が11月18日に発表した砂糖の生産状況報告によると、2019年度上半期（４～10月）の砂糖生産量は、前年同期と比べ198万トン多い2626万トン（前年同期比8.2%増）とかなりの程度増加した。糖種別に見ると、同国で最も多く生産され、輸出に仕向けられる粗糖（Very high polarity raw sugar〈VHP〉(注)）は同3.1%増にとどまる一方、国内消費にも仕向けられる白糖は同12.9%増とかなり大きく増加した。

また、オーガニックシュガーは過去最高を記録した前年度１年間の生産量をすでに上回る24万5000トン（同10.2%増）となった。今期のサトウキビの収穫は終盤を迎え、12月上旬ごろにほとんどの製糖業者が製糖を終える見通しであることから、2019年度のオーガニックシュガーの生産量は25万トン程度となる見込みである。しかしながら、オーガニックシュガーの10月末時点の在庫量は前年同月と比べ５万9000トン多い19万2000トンとなった。同国は、オーガニックシュガーの生産量の約９割を輸出に仕向けているが、オーガニック食品市場の拡大をけん引してきた欧米からの引き合いが鈍いことに加え、価格面で優位にあるコロンビアやパラグアイなどが輸出量を伸ばしており、在庫が積み上がっている。

（注）MAPAによると、糖度99度を超える粗糖を指す。

表２　ブラジルの砂糖需給の推移

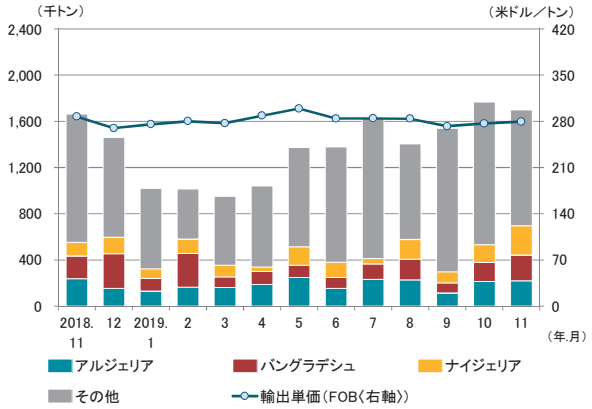
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（11月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,488	8,617	8,649	8,509	8,587	▲ 0.7
サトウキビ生産量		651,841	641,066	620,825	631,100	637,100	2.6
砂糖	生産量	41,670	41,517	31,225	31,093	31,539	1.0
	輸入量	4	2	3	3	3	▲ 9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	20,459	20,904	▲ 0.3
	期末在庫量	1,022	663	287	290	290	1.0
	期末在庫率	2.5	1.6	0.9	0.9	0.9	0.0 ﾎﾟｲﾝﾄ増

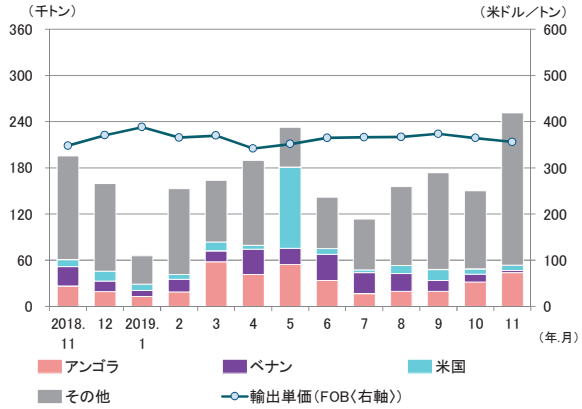
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３カ国を表示。

インド

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：459万ha（前年度比9.8%減）
生 産 量：３億6695万トン（同8.8%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：2933万トン（同17.8%減）
輸出量： 442万トン（同19.7%減）

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

多くの製糖業者が経営難に陥り、生産者への原料代（サトウキビ代金）の支払いが滞っていることから、生産者の生産意欲の減退を招いているほか、西部地域の各地で発生した洪水により圃場（ほじょう）の浸水被害に見舞われたことなども影響して、2019/20砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は459万ヘクタール（前年度比9.8%減）、サトウキビ生産量は３億6695万トン（同8.8%減）と、ともにかなりの程度減少すると見込まれる（表３）。

９月からエタノールの取引価格が引き上げられたことを受け、今後サトウキビをエタノール生産へ仕向ける動きが活発になると予想されるため、前述したサトウキビ生産の落ち込みによる影響も併せて考慮すると、砂糖生産量は2933万トン（同17.8%減）、輸出量は442万トン（同19.7%減）と、とも

に大幅に減少すると見込まれる。

ウッタル・プラデーシュ州政府、サトウキビの買い取り価格を据え置く

インドのサトウキビ生産量第１位の産地、ウッタル・プラデーシュ州の政府は12月７日、製糖業者が生産者からサトウキビを買い取る際の下限価格である勧告価格（State advised price〈SAP〉）を2019/20年度は１トン当たり3150ルピー（5324円）に設定すると発表し、２年連続で価格を据え置いた。

同州のサトウキビ生産者は燃料代や肥料代、人件費などの生産コストが上昇していることを理由に、SAPを１トン当たり4000ルピー（6760円）まで引き上げるよう州政府に要求していた。これに対し、同州の製糖業者は国内消費の伸び悩みや輸出の不振などで採算が悪化しており、「これ以上の価格の引き上げはSAPによる買い取りを順守することが困難」と訴えていた。今回の州政府の決定は製糖業者の意向に配慮した結果となり、生産者の間には州政府への不満の声がくすぶっている。

なお、インド政府が７月に定めた2019/20年度のサトウキビの最低買い取り価格（Fair and remunerative price〈FRP〉）(注) は前年度と同額の同2750ルピー（4648円）に据え置かれており、同州の買い取り価格の方が同400ルピー（676円）高い状況は引き続き維持される。

（注）SAPは州政府が独自に設定する価格であるため、FRPはSAPが設定されない州の生産者に適用される価格となる。一般に、SAP価格はFRPより高く設定される。

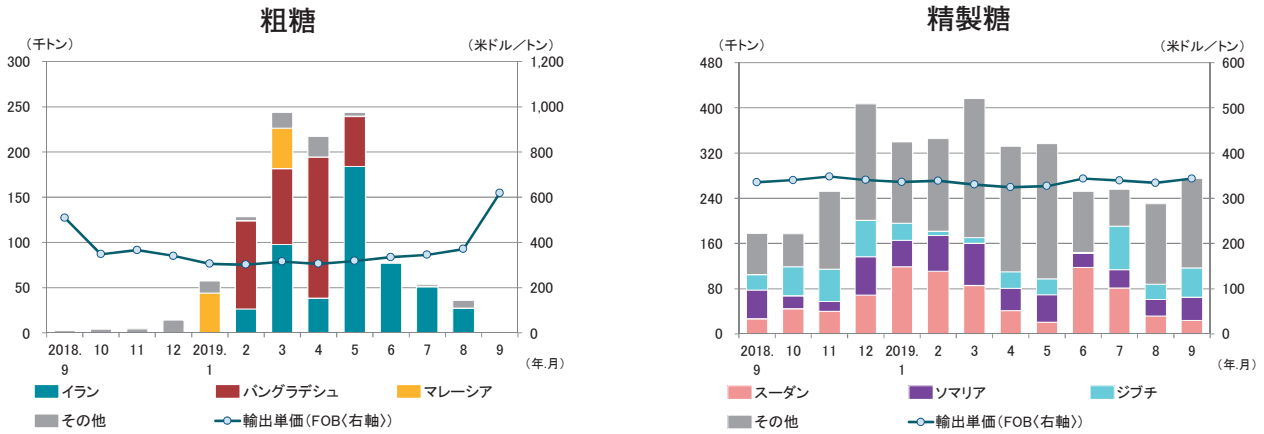
表３　インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（11月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		4,327	4,826	5,090	4,590	4,590	▲ 9.8
サトウキビ生産量		323,556	408,655	402,152	366,947	366,947	▲ 8.8
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,690	29,329	29,329	▲ 17.8
	輸入量	2,536	2,307	663	500	800	20.7
	消費量	26,568	27,232	27,537	28,084	28,084	2.0
	輸出量	2,233	2,361	5,504	4,420	4,420	▲ 19.7
	期末在庫量	3,952	11,710	15,023	12,331	12,648	▲ 15.8
	期末在庫率	13.7	39.6	45.5	37.9	38.9	6.6ﾎﾟｲﾝﾄ減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近１３カ月の輸出量（累計）上位３カ国を表示。

中　国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：118万ha（前年度比3.5%減）
生 産 量：7769万トン（同1.1%減）
【てん菜】
収穫面積：21万ha（同12.4%減）
生 産 量：1090万トン（同6.6%減）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1103万トン（同5.2%減）
輸入量：　518万トン（同4.3%増）

2019/20年度、輸入量はかなりの程度増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール（前年度比3.5%減）とやや減少し、天候不順で停滞していたサトウキビの生育状況に回復の兆しが見られるものの、収穫面積の減少による影響を相殺しきれず、サトウキビ生産量は7769万トン（同1.1%減）とわずかに減少すると見込まれる（表４）。てん菜については、収穫面積は21万ヘクタール（同12.4%減）とかなり大きく減少し、主産地である内モンゴル自治区で広範囲の害虫被害が発生した影響から、てん菜生産量は1090万トン（同6.6%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

これに伴い、砂糖生産量は1103万トン（同5.2%減）とやや減少し、その不足分を賄うため、輸入量は518万トン（同4.3%増）とやや増加すると見込まれる。

中国の税関当局、ベトナムからの密輸増を警戒

ベトナム産業貿易省は11月13日、東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国からの砂糖輸入について、2020年１月から関税割当による輸入量規制（注）を撤廃すると発表した。これは2010年に発効したASEAN物品貿易協定（ATIGA）に基づく措置で、関税割当の枠外関税（現行80%）が撤廃され、同地域から輸入される砂糖は５%の関税が適用される見通しである。

これに対し、中国税関当局は同国からの密輸の増加に警戒を強めている。現地報道によると、中国への密輸はミャンマーと中国の国境が主要ルートとされるが、近年、ベトナムやラオスなどのミャンマー以外の国を経由したものも増えており、それらを合わせると年間150万～ 180万トンの砂糖が中国に不正に流入しているとされる。2019年以降、中国税関当局は密輸ルートの壊滅に向け、密輸業者の大規模な摘発に乗り出しているものの手口が巧妙化しており、完全に防ぐことは不可能という。今後、ベトナムの砂糖輸入量が増大することで、同国において中国への砂糖の密輸に加担する業者が増えるおそれがあると指摘されている。

（注）2019年の砂糖に対する関税割当数量は９万8700トンに設定され、入札により輸入できる業者が決定されている。関税割当内の関税は、ASEAN加盟国からのものが５%、それ以外の国からのものが20～40%となっている。砂糖の輸入は、ASEAN加盟国のタイからの輸入が大半を占める。

表４　中国の砂糖需給の推移

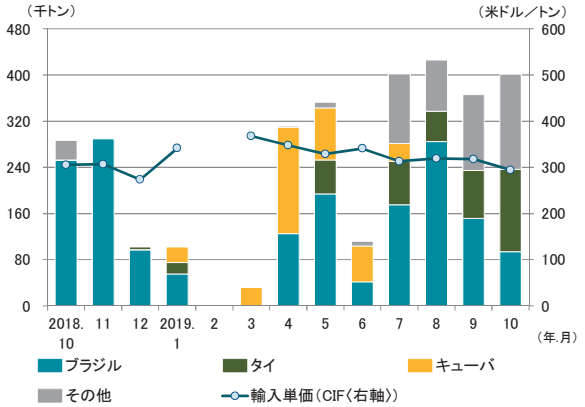
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（11月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,178	1,231	1,219	1,223	1,176	▲ 3.5
サトウキビ生産量		73,690	76,780	78,590	73,686	77,690	▲ 1.1
てん菜収穫面積		168	186	243	243	213	▲ 12.4
てん菜生産量		8,820	9,590	11,670	11,373	10,900	▲ 6.6
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	10,753	11,030	▲ 5.2
	輸入量	5,715	6,118	4,970	5,452	5,182	4.3
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,522	16,522	0.0
	輸出量	146	195	228	190	190	▲ 16.7
	期末在庫量	10,689	11,345	11,204	10,557	10,703	▲ 4.5
	期末在庫率	62.9	68.3	66.9	63.2	64.0	2.8 ﾎﾟｲﾝﾄ減

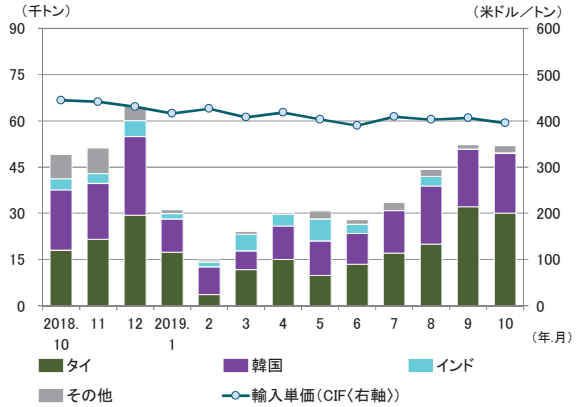
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位３カ国を表示。
注３：2019年２月の粗糖は、輸入実績がなかった。

ＥＵ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：161万ha（前年度比5.6%減）
生 産 量：１億1474万トン（同3.2%増）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：1801万トン（同1.5%減）
輸出量：　121万トン（同36.3%減）

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌９月）のてん菜の収穫面積は161万ヘクタール（前年度比5.6%減）とやや減少すると見込まれている（表５）。てん菜生産量は、深刻な干ばつに見舞われた前年度からの反動で１億1474万トン（同3.2%増）とやや増加すると見込まれる。

前年ほどではないものの平年より高温・乾燥した状況が続いた、EU最大の砂糖生産国フランスにおけるてん菜生産の落ち込みが響き、砂糖生産量は1801万トン（同1.5%減）とわずかに減少し、生

産量が消費量を下回ると予想されることから、輸出量は121万トン（同36.3%減）と大幅に減少すると見込まれている。

欧州の農業団体、ネオニコチノイド系農薬のてん菜生産への影響を評価

欧州てん菜生産者連盟（CIBE）は11月19日、ネオニコチノイド系農薬の使用禁止の影響という観点から今期の作況を総括した報告書を公表した。

EUでは、2018年12月にクロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサムを主成分とするネオニコチノイド系農薬の屋外での使用を禁止するEU規則が施行され、てん菜生産における一般的な用法である同農薬による種子処理が禁じられた。今回の報告書は、2019年のてん菜生産がその適用を受ける最初の年となったことを受け、同連盟が初めて公表したものである。

報告書では、多くのてん菜生産地で乾燥した状態が長く続き、防除対象のアブラムシ類の発生が平年より少なかったことなどを理由に「評価を行うにはふさわしくない年であった」とし、同農薬の使用禁止がてん菜生産に影響を与えたかどうかの判断を見送った。

他方、同農薬と同等のコストで同等の効果が得られる農薬が未だ存在しないと訴え、欧州委員会やEU加盟国の政府において代替する農薬・農法の研究開発を促進するための十分な財政支援を行うよう改めて求めた。

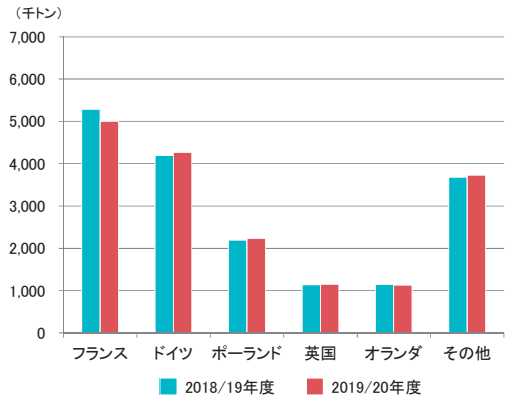
表５　EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

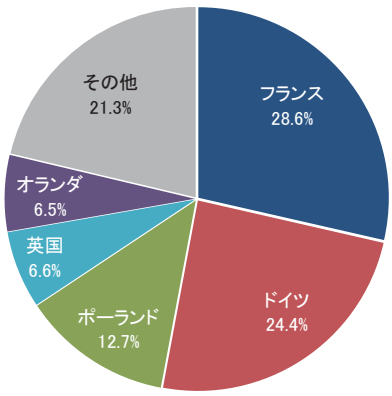
年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（11月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,466	1,738	1,708	1,613	1,613	▲ 5.6
てん菜生産量		107,986	140,076	111,196	117,475	114,738	3.2
砂糖	生産量	17,069	21,659	18,295	17,955	18,012	▲ 1.5
	輸入量	3,117	1,731	2,524	2,718	2,718	7.7
	消費量	19,177	19,218	19,653	19,523	19,523	▲ 0.7
	輸出量	1,510	3,809	1,894	1,150	1,207	▲ 36.3
	期末在庫量	2,354	2,717	1,989	1,898	1,989	0.0
	期末在庫率	11.4	11.8	9.2	9.2	9.6	0.4 ﾎﾟｲﾝﾄ増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合（2019年９月時点）



資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2018/19年度は暫定値、2019/20年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

5. 日本の主要輸入先国の動向（2019年12月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14−110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14−200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この２カ国で９割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回はグアテマラについて報告する

豪　州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：38万ha（前年度比0.7%増）
生 産 量：3012万トン（同7.3%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：409万トン（同13.4%減）
輸出量：312万トン（同12.7%減）

2019/20年度、砂糖生産量、輸出量ともに減少する見込み

2019/20砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビの収穫面積は38万ヘクタール（前年度比0.7%増）と横ばいで推移するものの、夏の記録的な猛暑による影響で生育の遅れが見られることから、サトウキビ生産量は3012万トン（同7.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる（表６）。

砂糖生産量はサトウキビの減産に加え、平均糖度が前年度を下回る水準で推移していることも影響し、409万トン（同13.4%減）とかなり大きく減少し、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、312万トン（同12.7%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

豪州政府、製糖業者と生産者との間の紛争の仲裁に乗り出す

豪州政府は12月19日、中国の食品大手企業の傘下にある製糖業者タリー・シュガー（Tully Sugar）社[注1]と、同社にサトウキビを出荷する生産者との間で2020年４月から適用されるサトウキビ供給契約の解釈をめぐって食い違いが生じている問題について、紛争解決に向け仲裁に乗り出すと発表した。

現地報道によると、タリー・シュガー社は、港湾施設の管理に関する費用を生産者が負担する旨とするサトウキビ供給契約書案を提示し、締結手続きを進めようとしたが、生産者がこれを拒否し、契約内容の見直しを求めたとされる。タリー・シュガー社は現行契約を明文化しただけと説明する一方、生産者は追加の費用負担は認められないと反発し、2018年末から開始された協議は現在も双方の意見が対立したままとなっている。

同国政府による仲裁の決定は、2017年に制定された「砂糖産業に対する強制行動規範（Competition and Consumer〈Industry Code—Sugar〉Regulations 2017）[注2]」に基づくもので、今回が初めての適用事例となる。

（注１）クイーンズランド州北部に製糖工場を一つ所有するのみの製糖業者であるが、同工場は豪州に20以上ある製糖工場の中でトップ５に入る製糖能力を誇る（2018年現在）。

（注２）同規範に関する詳細は、当機構ホームページの海外情報「砂糖産業内の紛争に連邦政府が異例の介入（豪州）」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001915.htmlをご参照ください。

表６　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（11月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		368	376	378	381	381	0.7
サトウキビ生産量		36,506	33,344	32,492	30,159	30,120	▲ 7.3
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,096	4,090	▲ 13.4
	輸入量	68	29	19	20	20	7.0
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	1,089	2.0
	輸出量	4,004	3,601	3,574	3,031	3,121	▲ 12.7
	期末在庫量	969	747	848	993	749	▲ 11.7
	期末在庫率	18.8	15.8	18.3	24.1	17.8	0.5ﾎﾟｲﾝﾄ減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タ　イ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：144万ha（前年度比19.8%減）
生 産 量：１億500万トン（同19.8%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1239万トン（同19.8%減）
輸出量：1203万トン（同15.2%増）

2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの輸出量は増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、144万ヘクタール（前年度比19.8%減）、サトウキビ生産量は１億500万トン（同19.8%減）と、ともに大幅に減少すると見込まれる（表７）。

サトウキビ生産の落ち込みに伴い、砂糖生産量は1239万トン（同19.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。一方、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった砂糖の過剰在庫を解消するために消費の増加が期待できる近隣諸国への輸出を強化するとみられることから、輸出量は1203万トン（同15.2%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

タイ政府、グリホサートの禁止決定をわずか１カ月で撤回

タイ政府の国家有害物質委員会（NHSC）は11月27日、グリホサート（注１）を主成分とする除草剤の製造、輸入、輸出、保有の禁止を決めた10月22日の決議を撤回すると発表した（注２）。その代わり、今後は対象作物や回数、地域に一定の条件を設けるなど使用を制限する方策に切り替える。また、グリホサートと同様に禁止対象となっていたパラコートを主成分とする除草剤と、クロルピリホスを主成分とする殺虫剤の２種の農薬については、禁止の開始時期を当初予定していた2019年12月１日から2020年６月１日に延期するとした。

現地報道によると、NHSCの議長であるタイ工業相は今回の決定に至った経緯について、農薬の使用が禁止されると農薬が残留している食品の販売も

禁止されることから、食品産業にも大きな影響を与えること▽国内に禁止対象となる農薬の在庫が数万トンあり、その処分に多額の費用がかかること－などの懸念があったと説明した。

３種の農薬の禁止を決めた同委員会の判断をめぐっては、生産者が「代替品が市場にほとんど流通しておらず、入手できたとしても高価で経営を圧迫する」と猛反発するとともに、タイにとって大豆や小麦など穀物の主要な輸入相手国である米国も、特にグリホサートの禁止についてタイ政府に再考を求める書簡を送ったとされる。

（注１）「ラウンドアップ」のブランド名で販売されている農薬。

（注２）３種の農薬の規制をめぐる動きに関する詳細は、当機構ホームページの海外情報「タイ政府、グリホサートの禁止決定をわずか１カ月で撤回」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002562.html）をご参照ください。

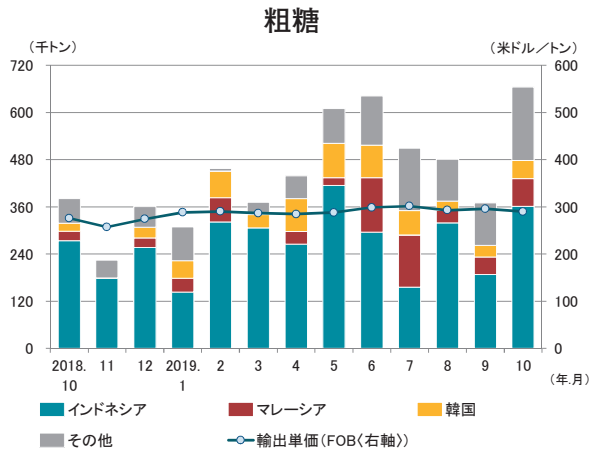
表７　タイの砂糖需給の推移

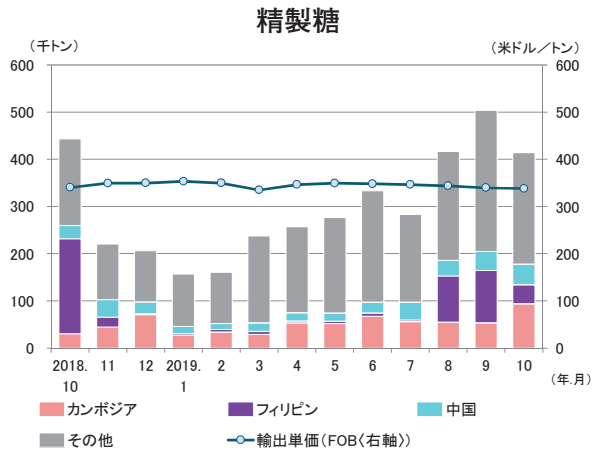
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（11月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,578	1,790	1,792	1,573	1,436	▲ 19.8
サトウキビ生産量		92,951	134,929	130,970	115,000	105,000	▲ 19.8
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	13,234	12,392	▲ 19.8
	輸入量	0	6	3	3	3	0.0
	消費量	3,283	3,337	3,737	3,812	3,812	2.0
	輸出量	7,393	10,077	10,439	12,871	12,031	15.2
	期末在庫量	3,951	6,129	7,413	3,956	3,964	▲ 46.5
	期末在庫率	37.0	45.7	52.3	23.7	25.0	27.3ﾎﾟｲﾝﾄ減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移





資料：「Global Trade Atlas」
注１：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注２：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位３カ国を表示。

グアテマラ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：26万ha（前年度同）
生 産 量：2695万トン（前年度比1.9%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：313万トン（同2.2%減）
輸出量：244万トン（同24.5%増）

2019/20年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は26万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移し、生産量は2695万トン（前年度比1.9%減）とわずかに減少すると見込まれている（表８）。

砂糖生産量は313万トン（同2.2%減）とわずかに減少すると見込まれている。長引く砂糖の国際価格の低迷による影響で、年間の国内消費量を上回る在庫量を抱え、輸出を強化せざるを得ない状況にあるため、輸出量は244万トン（同24.5%増）と大幅に増加すると見込まれている。

グアテマラなどとインドの砂糖補助金をめぐるWTO係争事案、長期化のおそれ

７月にインド政府の砂糖産業への補助金は不当だとしてグアテマラやブラジル、豪州の３カ国が世界貿易機関（WTO）に提訴している事案は現在、２国間協議が不調に終わり、裁判の一審に相当する紛争解決小委員会（パネル）に付託されている。現地報道によると、当事者間の主張は今なお平行線をたどっており、判決に当たるパネルの報告が出ても、それを不服としていずれかの国が上級委員会に上訴する公算が大きいとされる。

しかしながら、WTOは12月11日、裁判の最終審に相当する上級委員会での審理に必要な３人以上の上級委員を確保することができず、新規の上訴申し立ての手続きが事実上不可能となった。理由は、加盟国の全会一致での意思決定を原則とするWTOにおいて、任期が切れる上級委員の再任・後任の選定を米国が拒否し続けているためである。

これに伴い、グアテマラなど３カ国とインドとの砂糖補助金をめぐる争いは長期化するおそれが高まった。

表８　グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2016/17	2017/18	2018/19	2019/20（9月予測）	2019/20（12月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		256	264	263	267	263	0.0
サトウキビ生産量		25,835	25,936	27,461	27,270	26,947	▲ 1.9
砂糖	生産量	2,927	2,967	3,200	3,048	3,128	▲ 2.2
	輸入量	0	0	0	0	0	0.0
	消費量	898	924	949	974	974	2.7
	輸出量	2,164	1,827	1,964	2,276	2,444	24.5
	期末在庫量	724	940	1,228	933	938	▲ 23.6
	期末在庫率	23.6	34.2	42.2	28.7	27.4	14.7ﾎﾟｲﾝﾄ減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, December 2019」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。